

ひと

やすい まさゆき
安井 大幸 さん(23)



コロナ禍で苦しむ大学生を元気づけたい。そんな思いで、当事者の学生が中心になって31日にオンラインで開く「全国大学生サミット」の実行委員長を務める。

全国大学生生活協同組合連合会が夏に実施した学生調査の回答には、対面授業や課外活動の制限で「友人ができない」「意欲がわかない」といった不安があふれている。

た。「学生の力で、学生たちを前向きにさせるイベントを開きたい」。学生委員長として調査を取り仕切った責任感から、サミットの開催を決めた。学生同士が大学や授業への不安や要望などを語り合い、今後の大学生活に役立つ情報を得られる場を目指す。

英語の教員を夢見て愛知県から進学した琉球大学で、新生活をサポートしてくれた先輩に、沖縄、広島、長崎での平和活動などの実績から「周りを巻き込む力がある」と評価され、昨年12月から全国6千人の学生委員を束ねてきた。その集大成の取り組みになる。

教員の両親は多忙で、幼い頃は祖母と喫茶店に通い、大人にかわいがられた。「年上の人とのやりとりが得意」と自負する通り、今回も学生に加え、賛同した大学教授や会社員らの協力も得て準備を進める。「行動さえ起こせば、多くの人の力を集めて大きなことができる」と実感した。この経験は人生の中でも大きな財産になる。